

幼児の身體教育に就いて

東京女高師 宮 田 覺 造

學校教育に於ける身體教育に就いては、當局も實際家も常に考へられ研究も進め、近來著しい進歩を示してゐるのであります。さきに文部省は學校體操科の身體練習材料に大改正を加へ、これが實行について、種々の施設をいたしまして兒童生徒の身體教育の實を擧げんと考慮されてゐることは國民體力増進の上から見ましても、國家百年の基を築く上から見ましても誠に愉快な事でありま

す。私どももその改正につき責任の一部を擔當いたしますのでありますが、小學校に於ける身體練習の考察要點として考慮いたしましたことは、幼學年の材料選擇標準やその實施の方法でありました。效

果價値の多い材料を定められた時間の中で愉快に行ひ、身體の發育を助長せしめ、精神の教養に最も有效ならしめ、道徳的訓練を施すためには、如何なる材料を選ぶかと申しますならば、仲々議論の多いことであると思ふのでありますが、此の度の改正すべき重なる要項として擧げられ種々の材料を示されたうちで、幼児の身體教育に對して一つの目標を立てたものも見得るのであります。

幼稚園教育に於ける身體教育はどの點から見ましても、全教育の中核であり、根底であり、出發點でなければならぬと考へるのであります。

園児の身體教養を捨てた時は、幼稚園教育は殆ど空虚なものと申してもよいと思ふのであります。

す。しかも園児の身體活動は各種の方面から觀察も出來、指導も出來得るので、所謂肉體的價値のみを考ふるわけには行かぬのであります。智的に道徳的に情的に、その表現は多種多様でありますが身體教育を通じて人間、完成の基礎教育と考へたときには、園児の身體教育こそ最も重要なもので家庭及び學校の教育を研繋して一層組織的な系統ある教養をせねばならぬと考へるのであります。

我國に於ける幼稚園教育に就いて、動もすると誤られ易いのは、身體教育であります。「幼稚園」この言葉それ自身が身體活動について消極的な養護、保護、看護といふ事實と一致して仕舞ふので近來我が子の發育を見るにつけ、園児の活動を觀察するにつけ、兒童心理の考究を進むるにつけ、園児の遊戯的生活を考慮して益々幼兒の身體教育を考へさせられるのであります。

元來幼稚な兒童の身體教育には二つの方面があ

ると思ふのであります。それは消極的な方面と積極的な方面とであります。消極的な方面と申すのは身體を保護し養護して行かうとするので、平かな、危険もなければ、落つる心配もない、よし落ちたとしても絶對安全で何一つ危険が伴ふと云ふ様な事のない安全な道を辿る身體教育の方法であります。

積極的な方面と申すのは、山もあれば谷もある。滑かてすべる所もあり、危険物もあれば落つると云ふことも伴ひ易いやうな身體練習の方法であります。この二つの教養の過程を考へて見たときには、現今の園児の教養は消極的にのみ陥つてゐるといふ傾向が見えるのであります。

園児そのもの、自然的な身體活動の實狀はどんなものであるかと申せば心身發育の狀況に依つて多少の差異はあるけれども概して云ふとむしろ積極的な身體活動を好み、原始的な動物に近い勇敢

な活動の多いことを見るのであります。扉に昇り木に登り、屋根に上り向上的満足を好むもので、滑べる危険を冒してその頂上に上り天下を征服せんと苦心するのであります。扉を上げるといたしても低い廣庭では満足せず、小高い丘に上り崖の上で走り廻つてゐるので、かれらの生命はこれら活動のうちに自ら發展しつゝ培養されて行くものであります。

勿論これのみが園児の生活の全野ではない。模倣や想像も旺盛なことは日常生活にも仲々多いばかりでなく、科學的に研究もし教養せなければならぬ。旺盛だからといつてお人形遊びや、口笛のまねごと、ダンスのまねごと、兵隊ごつこや、主人お客料理のまねごとをしたからとて將來國家の大事を司るところの大人物養成の全部ではない。築山を造つたり、汽車を木片で作つたり、お池を拵へたり、動物や自然物に親しんで一年間を過ぎることが、園児の全生活でないと思へるのであります。

私はむしろ今後に於ける園児の身體教育は、自

然的な方法と、科學的な方法とに依つて系統ある立案の下に身體各部の教養と、精神的修練とを個人的に培養して行かねばならぬと考へるのであります。高い櫓を眺めてはその頂上に昇らんとする爲に、圓い眼をして地上をあらちらに走り廻り、誘導する保母の言葉耳にせず小板を捜し廻る心こそ尊いものではないか。小板を斜にかけ上肢と下肢とで、匍匐しながら僅づゝ揮身の勇氣を拂ひ、かぢりつきつゝ上りつめる努力こそ身體的に精神的に價値あることではないかと考へるのであります。やれ一段高き所に上りつめても満足せず更に頂上に上らんとして工夫する身體の身振ひも深い考慮を拂ふ點であります。次より次に上り頂上に上りつめ更に満足せず滑り落つる足をも工夫して踏みしめ手をはなし立ち上らんとするその心的要求から出た活動の痛快さ眞實の叫びではないかと思はれるのであります。將來を樂しむことの出来る人間を教育する道程はこの自然的な活動、心から出た工夫、自己の活動に伴ふ満足が唯一の教育材料であり、身體發育の教養手段であると信ずるのであります。